

中医協 診 - 1
26. 12. 3

診調組 D-1
26. 11. 26

診調組 D-2 (改)
26. 11. 10

平成 25 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告
に対する中医協基本問題小委からの指摘事項の分析について

I 概要

- 平成 26 年 10 月 8 日中医協基本問題小委員会において、平成 25 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の報告を行ったところ、委員より以下に示す 2 点に関して、DPC 評価分科会において再度議論を行い理由を明らかにすべきとの指摘を受けた。
 - 「退院時転帰の状況」について、「治癒」の項目が DPC 対象病院において減少している点
 - 「平均在院日数」が継続的に短縮している点

Ⅱ DPC 対象病院における「治癒」の減少に関して

【表 4 - 1】 退院時転帰の状況「治癒・軽快」

施設類型		平成 21	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 23	平成 24	平成 25
		年度 (6 か 月)	年度 (6 か 月)	年度 (6 か 月)	年度 (6 か 月)	年度 (6 か 月)	年度 (12 か 月)	年度 (12 か 月)	年度 (12 か 月)
DPC 対象病院 I 群	治癒	3.3%	2.5%	2.2%	1.8%	1.8%	2.2%	1.8%	1.8%
	軽快	74.8%	75.4%	75.6%	75.6%	75.9%	75.3%	75.4%	75.5%
	治癒＋軽快	78.1%	77.8%	77.8%	77.4%	77.7%	77.5%	77.2%	77.3%
DPC 対象病院 II 群	治癒	5.3%	4.5%	4.0%	3.4%	3.2%	4.1%	3.5%	3.2%
	軽快	73.5%	74.1%	74.8%	76.2%	76.0%	74.5%	75.7%	75.7%
	治癒＋軽快	78.9%	78.6%	78.8%	79.6%	79.2%	78.6%	79.2%	79.0%
DPC 対象病院 III 群	治癒	5.9%	5.2%	4.9%	4.8%	4.5%	4.9%	4.8%	4.6%
	軽快	75.2%	75.8%	76.4%	76.7%	77.3%	76.2%	76.4%	76.9%
	治癒＋軽快	81.0%	81.0%	81.3%	81.5%	81.8%	81.1%	81.2%	81.5%
DPC 準備病院	治癒	4.7%	3.8%	2.8%	3.1%	2.6%	2.8%	3.1%	2.6%
	軽快	72.3%	73.2%	73.8%	75.3%	75.8%	73.6%	74.7%	75.5%
	治癒＋軽快	77.0%	77.0%	76.6%	78.4%	78.4%	76.5%	77.9%	78.2%
出来高算定病院	治癒				2.4%	3.5%		2.2%	3.3%
	軽快				72.7%	73.1%		72.5%	73.0%
	治癒＋軽快				75.1%	76.6%		74.7%	76.2%

※ 6 ヶ月は 7 月から 12 月のデータ

【結果】

退院時転帰の状況については、「治癒＋軽快」に着目した場合、全ての病院類型において若干増減は認められるものの経年的な変化の傾向は認められない。

【指摘事項】

- 「治癒＋軽快」は経年的な変化は見られないかもしれないが、出来高算定病院においては「治癒」の割合が上昇しているのに対し、DPC 対象病院においては、「治癒」が経年的に減少している。この原因を明らかにすべきではないか。

① 治癒・軽快の定義について

転帰	定義
治癒	退院時に、退院後に外来通院治療の必要が全くない、または、それに準ずると判断されたもの。
軽快	疾患に対して治療行為を行い改善がみられたもの。原則として、その退院時点では外来等において継続的な治療を必要とするものであるが、必ずしもその後の外来通院の有無については問わない。
寛解	血液疾患などで、根治療法を試みたが、再発のおそれがあり、あくまで一時的な改善をみたもの。
不変	当該疾患に対して改善を目的として治療行為を施したが、それ以上の改善が見られず不変と判断されたもの。ただし、検査のみを目的とした場合の転帰としては適用しない。
増悪	当該疾患に対して改善を目的として治療行為を施したが、改善が見られず悪化という転帰を辿ったもの。

※ 平成 26 年度「DPC 導入の影響評価に係る調査」実施説明資料より

② 「治癒」「軽快」以外も含めた追加集計値 【図Ⅱ－１～８】

DPC 対象病院Ⅰ群

退院時転帰	(6 か月)				
	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
治癒	3.3%	2.5%	2.2%	1.8%	1.8%
軽快	74.8%	75.4%	75.6%	75.6%	75.9%
寛解	0.7%	0.7%	0.6%	0.5%	0.5%
不変	13.5%	12.8%	12.3%	12.4%	12.4%
増悪	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
最も医療資源を投入した傷病による死亡	2.0%	1.9%	1.8%	1.7%	1.6%
最も医療資源を投入した傷病以外による死亡	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%
その他（検査入院含む）	5.4%	6.5%	7.1%	7.6%	7.5%

DPC 対象病院Ⅱ群

退院時転帰	(6 か月)				
	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
治癒	5.3%	4.5%	4.0%	3.4%	3.2%
軽快	73.5%	74.1%	74.8%	76.2%	76.0%
寛解	0.7%	0.7%	0.6%	0.5%	0.5%
不変	10.3%	9.5%	9.5%	9.2%	9.6%
増悪	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
最も医療資源を投入した傷病による死亡	2.6%	2.6%	2.5%	2.3%	2.2%
最も医療資源を投入した傷病以外による死亡	0.5%	0.6%	0.7%	0.7%	0.7%
その他（検査入院含む）	6.9%	7.8%	7.8%	7.6%	7.7%

DPC 対象病院Ⅲ群

退院時転帰	(6 か月)				
	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
治癒	5.9%	5.2%	4.9%	4.8%	4.5%
軽快	75.2%	75.8%	76.4%	76.7%	77.3%
寛解	0.8%	0.7%	0.7%	0.6%	0.7%
不変	8.3%	7.7%	7.3%	7.2%	7.0%
増悪	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
最も医療資源を投入した傷病による死亡	3.0%	2.9%	2.8%	2.6%	2.6%
最も医療資源を投入した傷病以外による死亡	0.8%	0.9%	1.0%	1.0%	1.0%
その他（検査入院含む）	6.0%	6.5%	6.8%	6.8%	6.9%

DPC 準備病院

退院時転帰	(6 か月)				
	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
治癒	4.7%	3.8%	2.8%	3.1%	2.6%
軽快	72.3%	73.2%	73.8%	75.3%	75.8%
寛解	0.9%	1.1%	1.6%	1.1%	1.0%
不変	9.3%	9.7%	9.2%	9.0%	8.9%
増悪	0.3%	0.3%	0.4%	0.3%	0.3%
最も医療資源を投入した傷病による死亡	3.8%	4.0%	3.8%	3.6%	3.5%
最も医療資源を投入した傷病以外による死亡	0.6%	0.6%	0.7%	0.7%	0.7%
その他（検査入院含む）	8.1%	7.1%	7.8%	7.1%	7.3%

出来高算定病院

退院時転帰	(6 か月)				
	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
治癒				2.4%	3.5%
軽快				72.7%	73.1%
寛解				0.4%	0.4%
不変				13.5%	11.3%
増悪				0.5%	0.4%
最も医療資源を投入した傷病による死亡				4.2%	4.2%
最も医療資源を投入した傷病以外による死亡				0.6%	0.5%
その他（検査入院含む）				5.7%	6.7%

③ 再入院種別 【図Ⅱ－９】

【比率】（再入院種別再入院数／全退院症例数）

施設類型		平成 21 年度 (4 か月)	平成 22 年度 (4 か月)	平成 23 年度 (4 か月)	平成 24 年度 (4 か月)	平成 25 年度 (4 か月)	平成 24 年度 (12 か 月)	平成 25 年度 (12 か 月)
DPC 対象病院Ⅰ群	計画的	9.2%	9.2%	9.3%	9.3%	9.2%	12.0%	12.0%
	予期された	1.6%	1.9%	1.7%	1.7%	1.4%	2.2%	1.8%
	予期せぬ	1.5%	1.5%	1.6%	1.9%	2.2%	2.6%	2.9%
DPC 対象病院Ⅱ群	計画的	8.0%	7.7%	7.9%	7.7%	7.8%	9.8%	9.8%
	予期された	2.0%	2.1%	2.2%	1.9%	1.8%	2.3%	2.3%
	予期せぬ	1.9%	1.9%	2.0%	2.4%	2.5%	3.2%	3.3%
DPC 対象病院Ⅲ群	計画的	6.7%	6.4%	6.5%	6.5%	6.4%	8.2%	8.0%
	予期された	2.3%	2.3%	2.4%	1.9%	1.8%	2.5%	2.3%
	予期せぬ	2.3%	2.4%	2.4%	3.0%	3.1%	3.9%	4.1%
DPC 準備病院	計画的	5.7%	5.9%	6.2%	6.1%	6.2%	7.6%	7.7%
	予期された	2.0%	2.1%	2.0%	1.7%	1.4%	2.2%	2.0%
	予期せぬ	2.1%	2.4%	2.3%	3.0%	3.1%	3.9%	4.3%
出来高算定病院	計画的				7.5%	6.9%	9.5%	8.1%
	予期された				1.8%	1.5%	2.3%	2.0%
	予期せぬ				3.1%	3.2%	4.3%	4.5%

※ 4ヶ月は7月から10月までのデータ

※ 前回退院年月日より6週間以内の再入院である場合、各項目を入力

※ 再入院種別には以下の3項目あり、それぞれの定義は以下の通り

計画的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回入院で術検査等を行い、今回入院で手術を行うため。 ・ 前回入院以前に手術を行い、今回入院で計画的に術後の手術・処置・検査を行うため。 ・ 計画的な化学療法・放射線治療のため。 ・ 前回入院時、予定された手術・検査等が実施できなかったため。
予期された	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予期された原疾患・原疾患の合併症・併存症の悪化、再発のため。 ・ 患者のQOL向上のため一時帰宅したため。
予期せぬ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予期せぬ原疾患・原疾患の合併症・併存症の悪化、再発のため。 ・ 新たな他疾患発症のため。

【主な意見】

①治癒・軽快の定義

- 「治癒」と「軽快」の定義の違いは、「退院後の継続的な治療」を行うか行わないかという点だけではないか。
- 高齢化に伴い、なんらかの基礎疾患をもつ患者が多いため、入院目的の疾患を治療し退院しても「治癒」にはならないので、「治癒」が減少し「軽快」が増えているのではないか。
- 出来高算定病院においては、請求上、疾患ごとの転帰を設定し、総合的な転帰を設定することがないため、DPC 対象病院と比較した場合にデータの入力精度に差があるのではないか。
- 急性期を脱した患者を、その後の機能（リハビリ等）を担う病院での治療に移すなど、病床機能分化をすすめた結果、治癒率が低下し、軽快率は上昇していると考えられるのではないか。

②「治癒」「軽快」以外も含めた追加集計値

- 「増悪」「最も医療資源を投入した傷病による死亡」「最も医療資源を投入した傷病以外による死亡」は増加しておらず、粗診・粗療が起きているとは言えないのではないか。

③再入院種別

- いずれの病院種別でも同様の傾向を示しており、DPC 対象病院において、無理に患者を退院させているとは言えないのではないか。

【まとめ】

- 当該調査においては、一概に「治癒」を単独で病院のアウトカム指標として用いるのではなく、「治癒+軽快」をまとめてアウトカム指標としてモニタリングすることが妥当ではないか。

Ⅲ 「平均在院日数」に関して

【表 1 - 1】 在院日数の平均の年次推移【図Ⅲ - 1】

施設類型	平成 21 年 度 (6 か月)	平成 22 年 度 (6 か月)	平成 23 年 度 (6 か月)	平成 24 年 度 (6 か月)	平成 25 年 度 (6 か月)	平成 23 年 度 (12 か月)	平成 24 年 度 (12 か月)	平成 25 年 度 (12 か月)
DPC 対象病院Ⅰ群	16.03	15.68	15.33	15.01	14.71	14.57	14.29	13.99
DPC 対象病院Ⅱ群	13.92	13.86	13.61	13.39	13.19	13.03	12.86	12.66
DPC 対象病院Ⅲ群	14.60	14.49	14.22	13.90	13.76	13.62	13.37	13.21
DPC 準備病院	15.53	15.44	15.15	14.87	14.70	14.54	14.29	14.09
出来高算定病院				14.58	14.41		15.29	14.61

【結果】

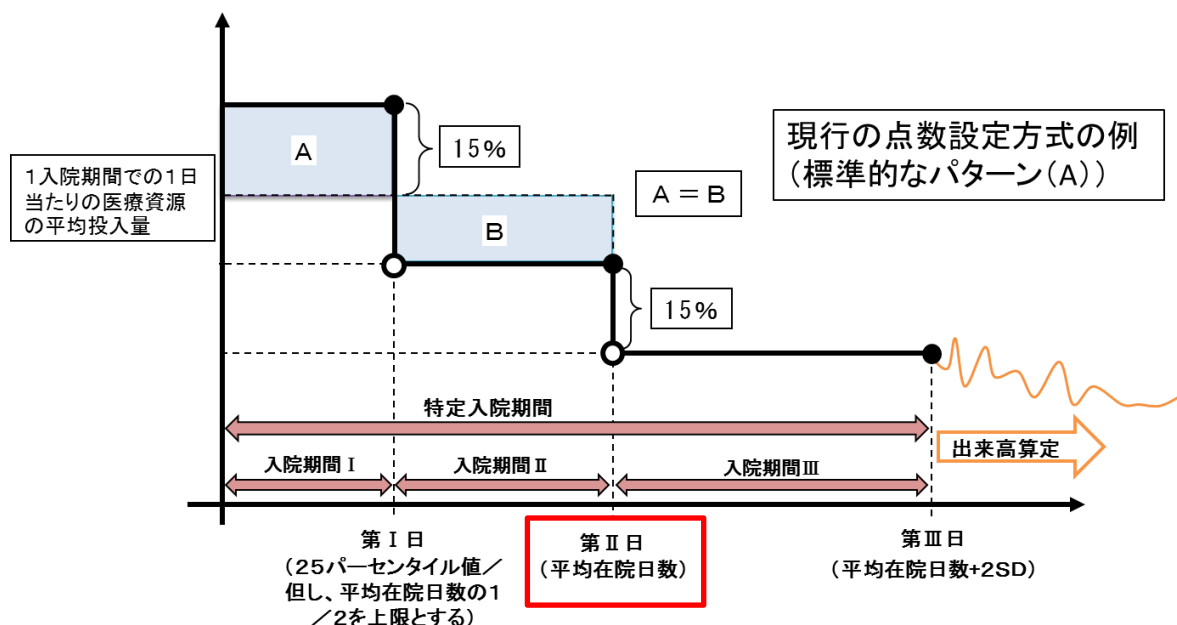
全ての病院類型において毎年短縮傾向が認められている。また DPC 病院の平均在院日数はその他の病院よりも短い。

【指摘事項】

- 「平均在院日数」は DPC 対象病院でより短く、また全体的にも継続的に減少している。「平均在院日数」の減少の要因分析を進めていただきたい。

① DPC/PDPS における平均在院日数短縮への取組みの診療報酬上の評価

1. DPC/PDPS の評価体系における点数表の設定方法



2. 効率性指数（医療機関別係数Ⅱ）

効率性指数	各医療機関における在院日数短縮の努力を評価	<p>〔全 DPC/PDPS 対象病院の平均在院日数〕／〔当該医療機関の患者構成が、全 DPC/PDPS 対象病院と同じと仮定した場合の平均在院日数〕</p> <p>※ 当該医療機関において、12 症例(1 症例/月)以上ある診断群分類のみを計算対象とする。</p> <p>※ 包括評価の対象となっている診断群分類のみを計算対象とする。</p>
-------	-----------------------	--

② DPC/PDPS 以外における平均在院日数短縮への取組みの診療報酬上の評価 (※DPC 評価分科会における議題ではないためあくまで参考)

1. 看護配置

看護配置	算定要件としての平均在院日数		
	H14年	H18年	H24年
7対1	/	19日以内	18日以内
10対1	21日以内	21日以内	21日以内
13対1	26日以内	24日以内	24日以内
15対1	上限なし	60日以内	60日以内

※ H26年改定においては、一般病棟入院基本料7対1・10対1における一部長期入院患者を算定対象から外す措置を廃止。

2. 各種入院料

例)

救命救急入院料1 (1日につき)	
イ 3日以内の期間	9,869点
ロ 4日以上7日以内の期間	8,929点
ハ 8日以上14日以内の期間	7,623点

特定集中治療室管理料 (1日につき)	
イ 7日以内の期間	13,650点
ロ 8日以上14日以内の期間	12,126点

③ 医療技術等の進歩

④ 病床機能の分化

【表5】退院先の状況「転院」【図Ⅲ－2】

施設類型	平成 21 年度 (6 か月)	平成 22 年度 (6 か月)	平成 23 年度 (6 か月)	平成 24 年度 (6 か月)	平成 25 年度 (6 か月)	平成 23 年度 (12 か 月)	平成 24 年度 (12 か 月)	平成 25 年度 (12 か 月)
DPC 対象病院Ⅰ群	4.5%	4.7%	4.8%	5.0%	5.1%	4.8%	4.9%	4.9%
DPC 対象病院Ⅱ群	5.9%	6.2%	6.4%	6.6%	6.8%	6.4%	6.5%	6.7%
DPC 対象病院Ⅲ群	5.2%	5.3%	5.3%	5.5%	5.8%	5.3%	5.4%	5.6%
DPC 準備病院	6.2%	6.2%	6.3%	5.4%	5.6%	6.3%	5.4%	5.5%
出来高算定病院				4.5%	5.1%		4.6%	5.3%

【主な意見】

① DPC/PDPS における平均在院日数短縮への取組みの診療報酬上の評価

- DPC/PDPS における点数設定方式では、各疾患（各診断群分類）における、平均在院日数短縮に対する医療機関の取組みが診療報酬において反映されるためではないか。
- 各疾患（各診断群分類）において在院日数の全国平均値が明確に示されているため、DPC 対象病院では、その値を努力目標に質の改善に取り組んだ結果、平均在院日数が短縮されているのではないか。

② DPC/PDPS 以外における平均在院日数短縮への取組みの診療報酬上の評価

- 在院日数が短いほど、評価をする仕組みになっているために、平均在院日数が短縮しているのではないか。

③ 医療技術等の進歩

- 在宅、外来での化学療法の増加により、入院の必要が少なくなったためではないか。
- 急性期からの積極的なリハビリの介入により、離床までの時間が短縮され、入院期間が短縮したのではないか。
- 内視鏡手術や血管内治療などの、侵襲性の低い技術が進歩したためではないか。
- 褥瘡、感染、緩和ケア、嚥下などの分野の専門・認定看護師の増加により、合併症の発生を抑えることや、ADL の低下を防ぐことが可能になったためではないか。

④ 病床機能の分化

- 転院の割合は経年的に増加の傾向にあり、急性期を脱した患者の受け皿となる病院が整備されてきた結果、「平均在院日数」が減少していると類推できるのではないか。

【まとめ】

平均在院日数の減少には、上記に示した通り、様々な複合的な要因が考えられる。